

令和3年度 京友会国際賞の選考結果

Araya 氏の論文は、記憶の心理学的研究の国際トップジャーナルである Memory & Cognition に掲載されたものであり、語彙獲得の最も基本的なメカニズムの1つであるヘップ反復効果が、これまで考えられていた以上はかなり広範な影響力を持つ現象であるということを示したもので、高い国際的評価を受けた研究である。加えて、本研究は本学の「戦略的パートナーシップ校」であるスイス・チューリッヒ大学との共同研究の成果が結実したのもでもあり、国際賞にふさわしいと判断する。

王氏の論文は、日本の長寿番組『中学生日記』が提示した中学生像・学校像の変遷をナラトロジーの手法を用いて考察したものである。本論文は、学校内部のあり方や青少年の心の問題に焦点を当ててきたこれまでのメディア研究の文脈とは異なり、同番組が学校や教師の立場をストーリーの中に包摂した「オルタナティブな言説」であると指摘した。また、マスメディアによる教育実践の可能性を再考する契機を提供する優れた論文である。加えて、留学生が本研究を行ったことは、本研究科のグローバルな発信の点でも大いに評価できる。

以上のように、いずれも受賞に値する素晴らしい論文であると判断し、二本の論文を受賞対象とした。二人の研究生活が世界に向けてますます発展されることを期待したい。

2022年5月11日 審査委員 小林哲郎・服部憲児

氏名	学年	論文題目
アラヤ クラウディア Araya, Claudia (コスタリカ共和国)	D2	The Hebb repetition effect in complex span tasks: Evidence for a shared learning mechanism with simple span tasks (複合スパン課題におけるヘップ反復効果：単純スパン課題と共通する学習メカニズムの証拠)
おう れいび 王 令薇 (中国)	D3	オルタナティブな「中学生問題」の構築過程——NHK『中学生日記』のストーリー分析を中心に